取説番号　0173-3161A

取扱説明書

【取付編】

TE670
テレコントロール・エンジンスターター

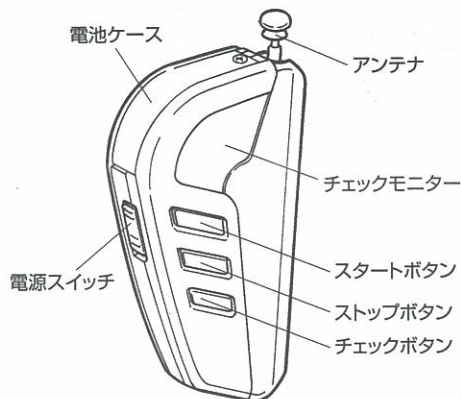
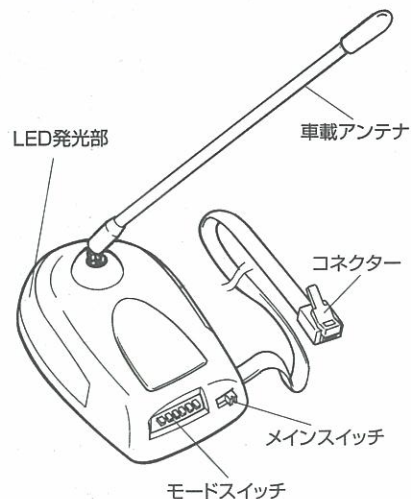
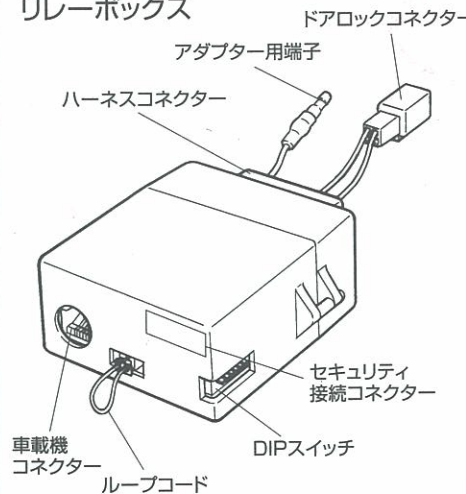
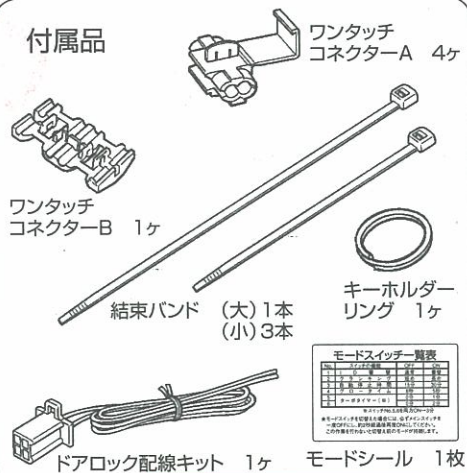
STARTEX
TELECONTROL ENGINE STARTER

国産12Vオートマチック車専用

もくじ

項目　　ページ

製品構成および各部の名称…………1
注意事項の定義…………2
取付禁止車…………2
お取付けの前に…………3
取付準備…………3
取付概要図…………4
取付方法…………5～11
エンジンがスタートしない場合…………12～13
仕様…………14
アフターサービスについて…………裏表紙
保証書…………裏表紙

製品構成および各部の名称

注意事項の定義

この取扱説明書の注意事項は、そのレベル、内容ごとにマークを設けています。各々の定義（意味）を十分に理解された上でお使いください。

- ⚠危険　重大事故が起こる状況のもの。
- ⚠警告　人体に対し、危害が生じる恐れのあるもの。
- ⚠注意　物品を破損、故障させる恐れのあるもの。
- ⚠禁止　法律に違反する恐れのあるもの。
- 参考　取付け、取扱いにおいて知っていると有益な情報。

取付禁止車

●オートマチック車専用です。
マニュアル車にはお付けできません。

⚠危険

マニュアル車への取付けは、絶対にしないでください。
マニュアル車は、冬季にサイドブレーキの凍り付を防ぐため、サイドブレーキを引かずにギアを「ロー」もしくは「バック」に入れ駐車する場合があります。また、坂道などに駐車する際にもギアを「ロー」もしくは「バック」に入れます。
その際に、エンジンスターターを使用すると、無人走行の原因となり、思わぬ大事故につながります。

●国産車専用です。
外車にはお取付けできません

●12V車専用です。
トラックなどの24V車には、お取付けできません。

●89年以前の車でシフトロックが装着されていない車（フットブレーキを踏まずにセレクトレバーが「P」から移動できる車）には、お取付けできません。

●エンジン始動時に下記のような場合にはお取付けできません。

［アクセル操作が必要な車］　［チョークレバーを引く車］　［年間通じて、キーを回して2秒程度でエンジンのかからない車］

●ホンダ車の雨滴感応ワイパー装備車には、お取付けできません。取付けすると故障の原因となります。

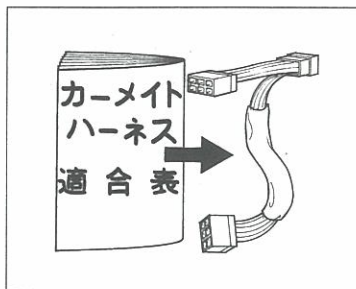
お取付けの前に

⚠危険 マニュアル車へのお取付けは、絶対にしないでください。重大事故につながる恐れがあります。

⚠警告 専用ハーネスを使用せず直接配線によるお取付けは、絶対にしないでください。事故の恐れがあります。

⚠警告 サイドブレーキ検出コード、フットブレーキ検出コード（7ページ参照）は、エンジンスターターをご使用になるうえで、誤ってお車を発進させないための安全装置ですので、必ず接続してください。

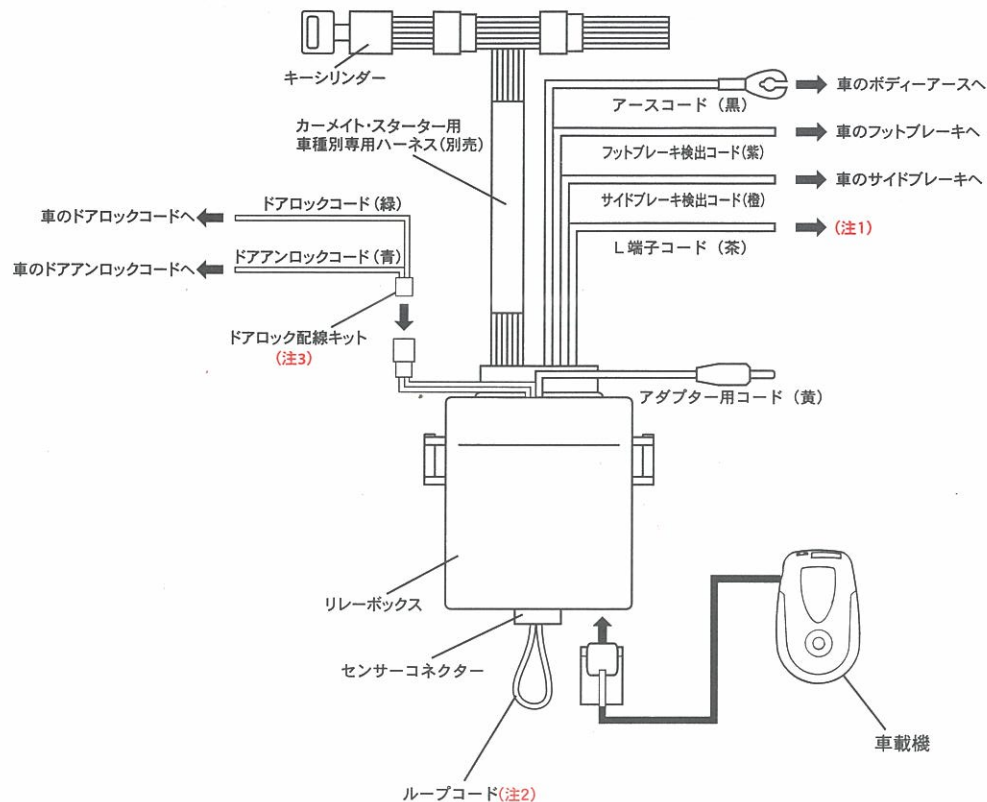
⚠警告 整備中に誤って携帯機を操作しますと、予期せぬエンジン始動により、重大事故につながる恐れがありますので、危険シールの貼付けを必ず行ってください。
※ボンネットオープンセンサー（別売）の取付けをお奨めします。

⚠注意 この製品は、カーメイト・スターター用車種別専用ハーネス（別売）以外ではお取り付けできません。取付けには、必ず店頭の「カーメイト用車種別専用ハーネス適合表」をご確認のうえ、正しい専用ハーネスをご使用ください。（当社RÄZO車種別専用ハーネスはご使用になれません。）

取付準備

☜参考 この製品を取付ける場合は、下記の工具が必要になります。特に、検電テスターは取付時に必要ですので、必ずご用意ください。
ご用意できない場合は、ご購入店・ディーラー・整備工場での取付けをお奨めいたします。

準備工具（次の工具は付属されていないのでご用意ください。）

⊕ドライバー、⊖ドライバー、スパナ、レンチ、ペンチ、ニッパ、検電テスター、ビニールテープなど

取付概要図

（注1）
始動判断が行えない（12、13ページ）車種のみ、オルタネーターのL端子へ接続してください。

（注2）
センサーコネクターは別売のボンネットオープンセンサーを取付ける場合に使用します。
ボンネットオープンセンサーを取付けない場合は、ループコードを必ず接続してください。
ループコードを取外すと本体が作動しなくなります。

（注3）
ドアロック／アンロック機能を使用しない場合、ドアロック配線キットは接続する必要はありません。
また、別売のドアロックアダプターが必要な車種はドアロックアダプターの取扱説明書に従って取付けてください。

※本文では、フットブレーキ検出コード、サイドブレーキ検出コードを総称して安全コードと呼びます。

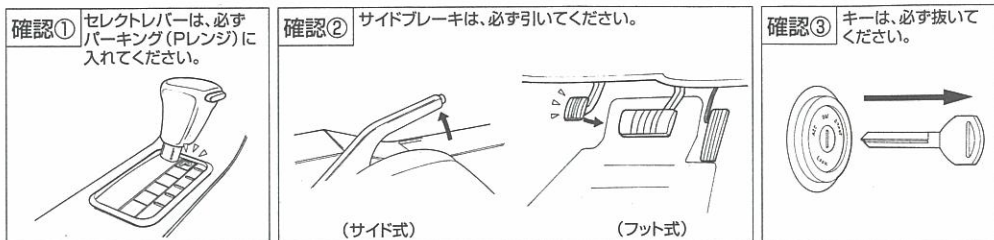
取付方法

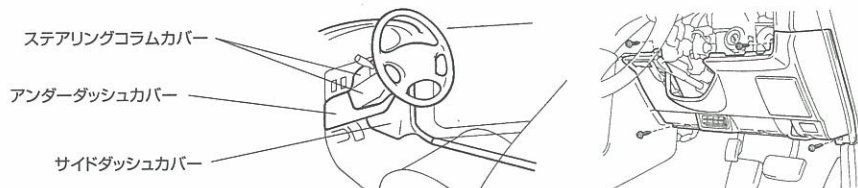
以下のことがらを確認のうえ、取付を行ってください。

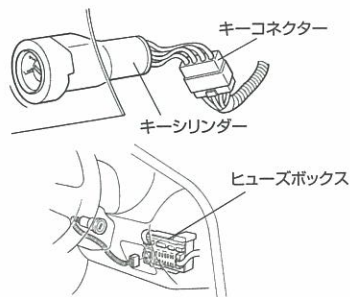
確認① セレクトレバーは、必ずパーキング（Pレンジ）に入れてください。

確認② サイドブレーキは、必ず引いてください。

（サイド式）　（フット式）

確認③ キーは、必ず抜いてください。

1 専用ハーネスの接続

①アンダーダッシュカバー、ステアリングコラムカバー、サイドダッシュカバーをはずします。

参考　車種によりスピーカーカバー内や目隠し板内にネジがあります。また、カバー等にコネクター、ユニットがついている場合は後で接続忘れのない様チェックしておいてください。

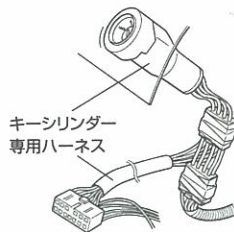
②キーシリンダーの裏から出ているコードをたぐりキーコネクターを探します。

参考　車種によりキーシリンダー裏やヒューズボックスにコネクターがあります。

⚠注意　ホンダ車、マツダ車はコネクターが2個以上あり、また、その付近に同形状のコネクターがありますので注意してください。
誤って、コネクターを接続しますと車両故障の原因となります。

③コネクターを抜き、その間に車種別専用ハーネスを接続します。

⚠注意
コネクター同士の接続は、はずれないようにしっかりと奥まで押し込んでください。

④接続部をビニールテープで巻いてください。

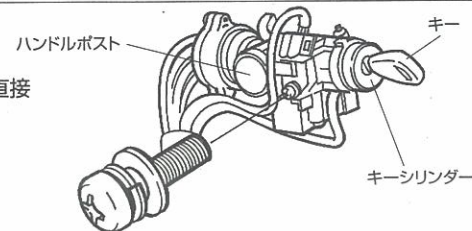
キーシリンダー
専用ハーネス

2 アースコードの接続

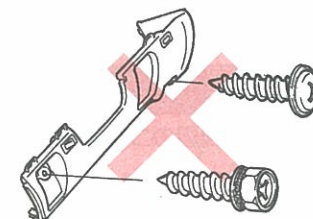
専用ハーネスのアースコード（黒）を確実に車体の金属部分にアースしてください。

⚠注意　アースが不完全な場合、リモコンによるエンジン始動が行われない、スターターが回らない等の不具合が生じます。特に最近の車種は、軽量、防錆のために車輌金属部がメッキ、塗装等で、電導率が低いものを使用しているため、アースされていないネジ、金属がたくさんあります。十分ご確認のうえ、アースコードの接続を行ってください。

取付けに適している場所

●車の電装のアースポイント
（コンピューター、リレーなどのアースコードを直接ボディに接続しているところ）

●ハンドルポスト、ペダル奥の大きめのネジ

取付けに適さない場所

●アンダーダッシュやセンターコンソール等樹脂を止めているネジ（タッピンネジ）

3 安全コードの接続（必ず接続してください）

安全コードの接続はワンタッチコネクターを使用します。

ワンタッチコネクターA

①安全コードを入れる

②車体側の接続コードを通す

③仮止めをする

④プライヤー等で金具を押込む

⑤カバーをする

ワンタッチコネクターB

①安全コードを入れる

②プライヤー等ではめる

③車体側の接続コードを通す

④プライヤー等ではめる

3-1 フットブレーキ検出コードの接続

※フットブレーキ検出コードは必ず接続してください。配線しない場合、本体は作動しません。

①フットブレーキペダル付け根にあるフットブレーキスイッチを探します。

②フットブレーキスイッチから出ているコードでフットブレーキを踏んだ状態で12V、離した状態で0Vになるコードを検電テスター等で探しそのコードとフットブレーキ検出コード（紫）をワンタッチコネクターBで接続します。

3-2 サイドブレーキ検出コードの接続

サイドブレーキスイッチから出ているコードにサイドブレーキ検出コード（橙）をワンタッチコネクターAで接続します。

サイドブレーキコードの探し方

①サイドブレーキ周辺のコンソールカバー等を取外します。

②サイドブレーキに付いているスイッチを探し、そのスイッチ

サイドブレーキコードが1本の場合

右図のようにサイドブレーキスイッチから出ているコードに接続します。

サイドブレーキコードが2本以上の場合

①キーをONの位置にします。

②サイドブレーキを降ろした状態で12V、引いた状態で0Vになるコードを検電テスター等で探しそのコードに接続してください。

コラム式、フット（ペダル）式も上記と同様に接続してください。

参考　本製品はスキー場や寒冷地で使用する方のために、サイドブレーキ検出は解除できます。
スキー場や寒冷地でサイドブレーキを使用しない場合はリレーボックスのDIPスイッチNo.1をONにしてください。

4 ドアロック／アンロックコードの接続

参考　車種により、ドアロック／アンロック機能が使用できない場合があります。
店頭の車種別ハーネス適合表で適合を確認したうえで、お取付けください。

⚠注意　取付車種が適合外の場合、ドアロック／アンロックコードは、配線しないでください。適合外の車種に配線すると、不具合の原因となります。
ドアロック／アンロックコードは配線しなくても、エンジンスターターの機能は正常に作動します。
（ドアロック／アンロック機能およびドアロック確認機能のみ、ご使用になれません。）

付属のドアロック配線キットで接続する場合（別売アダプターが不要な車種のみ）

※別売アダプターが必要な車種はアダプターの取扱説明書に従って接続して下さい。

4-1 ドアロックコードの接続

①運転席のドアロックスイッチを押した時に0V（アースと導通する）、スイッチをはなすと12Vになるコードをテスターで探します。
②そのコードと付属のドアロック配線キットの「ドアロックコード（緑）」をワンタッチコネクターAで接続します。

4-2 ドアアンロックコードの接続

①運転席のドアアンロックスイッチを押した時に0V（アースと導通する）、スイッチをはなすと12Vになるコードをテスターで探します。
②そのコードを付属のドアロック配線キットの「ドアアンロックコード（青）」をワンタッチコネクターAで接続します。

5 車載機の取付け

⚠警告 エアバッグ装着車は、エアバッグカバー部には取付けしないでください。
エアバッグ作動時にケガをする恐れがあります。

⚠注意 運転の妨げになるような取付け方をしないでください。事故の原因となります。

☞参考 アンテナエレメントは、車体の金属部分に接触または極端に接近させないでください。
アンテナの感度が極端に低下します。

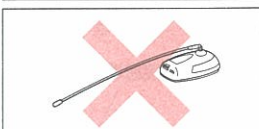
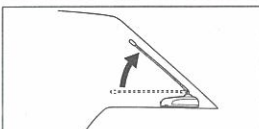
①車載機裏面の粘着テープのハクリ紙をはがし、ダッシュボードにしっかりと固定します。

⚠注意 取付面の汚れやホコリを中性洗剤などでふきとって、ください。
汚れや光沢剤等が残っていると粘着力が低下します。

②ケーブルをダッシュサイドからアンダーダッシュ付近まで持っていきます。

⚠注意 ケーブルが運転のじゃまにならないように、取り回してください。
事故の原因となります。

③アンテナエレメントがフロントウィンドウに当たらないように角度を調節します。

☞参考 アンテナの角度を極端にさげると、感度が低下します。

6 リレーボックスとの接続（4ページ取付概要図参照）

※リレーボックスに貼ってある「マニュアル車取付禁止シール」の内容をよく読んで、その内容に従ってください。

①車載機のコネクターをリレーボックスの車載機コネクターにしっかりと奥まで差込みます。

⚠注意 必ず車載機のメインスイッチがOFFの位置にあることを確認してからコネクターを接続してください。メインスイッチがONの位置で接続すると正常に作動しません。

②専用ハーネスのコネクターをリレーボックスのハーネスコネクターにしかりと奥まで差込みます。

⚠注意 専用ハーネスとリレーボックスの接続が不完全な場合、イグニッションキーによるエンジン始動が行えなくなります。

【ドアロック／アンロックコードを接続した場合】

③ドアロック配線キットのコネクターをリレーボックスのドアロックコネクターにしっかりと奥まで差込みます。（別売のドアロックアダプターを使用する車種は、ドアロックアダプターの取扱説明書に従って接続してください。）

☞参考 リレーボックスから出ているアダプター端子は、別売アダプターを取付けする場合に使用します。
別売アダプターの取付けは、アダプターの取扱説明書をご覧ください。
尚、別売アダプターを接続しない場合は、ショートしないようにアダプター用端子を黒チューブの中に隠してください。

④リレーボックスのDIPスイッチを下記の表を参考に適宜設定します。

スイッチNo.	スイッチの内容	OFF	ON
1	サイドブレーキ検出	あり	なし
2	ホンダABS	なし	あり
3	ノイズ検出	なし	あり
4	使用しない		
5	使用しない		
6	使用しない		

⚠注意 スイッチNo.4～6は、セキュリティシステム「スーパーバリケード」と接続する場合のみ使用します。
「スーパーバリケード」と接続しない場合は必ずOFFにしておいてください。

7 作動チェック

7-1 エンジンスタートの確認

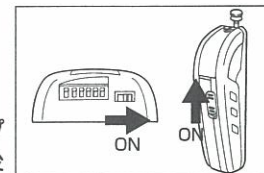
①アンダーダッシュ等を外した際、取外したコネクターを差込みます。

②シフトレバーを「P」に入れ、サイドブレーキをしっかりと引きます。

③メインスイッチをONにします。
すでにメインスイッチがONになっていた場合には、製品のスリープモードを解除するため、メインスイッチを一度OFFにし2秒経過後再度ONにしてください。

④携帯機の電源スイッチをONにします。

⑤携帯機のスタートボタンを約1秒間電子音が鳴るまで押します。

★自動的にイグニッションが入り、数秒後にエンジンがスタートします。
エンジンがスタートしない場合は、12、13ページの「エンジンがスタートしない場合」を参照しながら確認してください。

7-2 エンジンストップの確認

①携帯機でエンジン始動中に携帯機のストップボタンを約1秒間電子音が鳴るまで押します。

★エンジンが停止します。

7-3 安全機能の確認

※携帯機でエンジンスタート後、下記の動作によりそれぞれエンジンがストップすることを確認してください。

①フットブレーキを踏みます。 ➡ エンジンストップ

【サイドブレーキを検出する場合】
②サイドブレーキを降ろします。 ➡ エンジンストップ

7-4 ドアロックの確認（ドアロック配線を行った場合）

確認1. 車のドアが全部閉まっていること。
確認2. ドアのカギが開いていること。

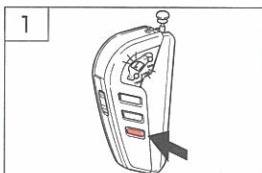
①携帯機のチェックボタンを約1秒間電子音が鳴るまで押します。
（携帯機のチェックモニターの「DOOR」が橙色に光ります。）

②チェックモニターの「DOOR」が光っている間に、携帯機のスタートボタンを約1秒間電子音が鳴るまで押します。
（携帯機のチェックモニターの 「ENG.」 と 「TEMP.」 が交互に緑色に光ります。）
★車のドアが施錠されます。

7-5 ドアアンロックの確認（ドアロック配線を行った場合）

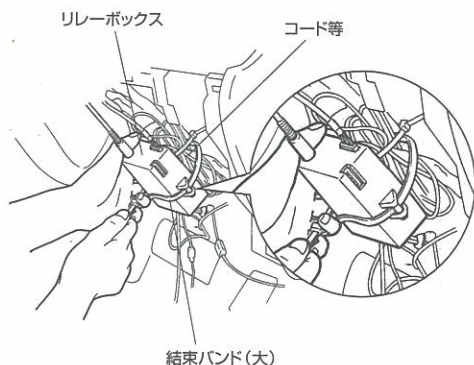
確認1. 車のドアが全部閉まっていること。
確認2. ドアのカギが閉まっていること。

①携帯機のチェックボタンを約1秒間電子音が鳴るまで押します。
（携帯機のチェックモニターの「DOOR」が橙色に光ります。）

②チェックモニターの「DOOR」が光っている間に、携帯機のストップボタンを約1秒間電子音が鳴るまで押します。
（携帯機のチェックモニターの 「ENG.」 と 「TEMP.」 が交互に赤色に光ります。）
★車のドアが開錠されます。

8 リレーボックスの取付け

①アンダーダッシュ内のコード等にリレーボックスを付属の結束バンド（大）で固定します。

②コードが運転のじゃまにならないよう束ね、付属の結束バンド（小）で固定します。

③取り外したアンダーダッシュ、サイドダッシュ等を取付けます。
その際、外したコネクター等は、必ず接続してください。

9 危険シールの貼付け

事故を未然に防ぐために、付属の危険シールをエンジンルーム内の見やすい場所に必ず貼付けてください。
汚れ等でシールの文字が読みづらくなった場合には、ウエス等で汚れをふき取ってください。

エンジンがスタートしない場合

故障、不良とお考えになる前に下記の確認を必ず行ってください。

はじめに確認して頂きたいこと

取付の車種が本製品の取付不可能車になっていませんか。エンジンスタートしない原因を車載機のLED発光部にて確認します。

①メインスイッチを一度OFFにし、2秒経過後再度ONにします。
※車載機のLEDランプが下記のどの状態かを判別します。

チェック項目1

	点滅状態	原因・対処方法
1	左右交互に点滅を繰り返す	●受信待機中です。 （通常エンジンがかかっていない時はこの状態です。）
2	ランプが消えたままなにも点滅しない	●イグニッションキーがONの位置になっています。 イグニッションキーをOFFにしキーを抜いてください。 ●受信機（操作部）の電源スイッチがOFFになっています。 スイッチをONにしてください。 ●受信機がスリープモードになっています。 受信機（操作部）の電源スイッチを一度OFFにし5秒経過後更にONにしてください。
3	ずっと点灯を続ける	●ID書き込みモードになっています。 車載機のモードスイッチNo.1をOFFにしてください。 更にメインスイッチを一度OFFにし、2秒経過後再度ONにしてください。

チェック項目1の点滅状態が1の場合

①作動チェックの方法に従い、携帯機のスタートボタンを電子音がなるまで約1秒間押します。
②車載機のLED発光部が点滅する場合は、点滅のしかたが次ページのチェック項目2のどの状態かを判別します。

チェック項目1の点滅状態が2の場合

■上記の対処法を行っても点滅状態1にならない場合には、次のことがらを確認してください。
①専用ハーネスの適合を確認してください。
②専用ハーネスの接続（5ページ）、リレーボックスとの接続（9ページ）を確認してください。
③アースコードを一度外し、シガーライターソケットのリングの部分に当てた状態でメインスイッチを一度OFFにし、2秒経過後再度ONにしてください。この作業を行って点滅状態1になった場合は、アースの位置を変えてアースコードを接続してください。

チェック項目2

	点滅状態 ☼：短い点滅，☼：長い点滅	原因・対処方法
1	（4回短い点滅を2セット繰り返す）	●ループコードがはずれています。 ループコードをしっかりと接続してください。 **ボンネットオープンセンサー〔別売〕を使用している場合** ●ボンネットオープンセンサーの取付・配線が間違っています。取付・配線をやり直してください。 その後、車載機のメインスイッチを一度OFFにし2秒経過後更にONにしてください。
2	（2回短い点滅・1回長い点滅・1回短い点滅を2セット繰り返す）	●フットブレーキ検出の取付配線が間違っています。 取付・配線をやり直してください。（7ページ参照） ●フットブレーキが踏まれています。離してください。
3	（2回短い点滅の後2回長い点滅を2セット繰り返す）	●サイドブレーキ検出の取付・配線が間違っています。 取付・配線をやり直してください。（7ページ参照） ●サイドブレーキが引いてありません。引いてください。
4	（短い点滅・長い点滅を交互に4回 2セット繰り返す）	●車の電圧が低く、スターターを回せません。 バッテリーを充電してください。 （バッテリー電圧が低い場合のバッテリー上がりを未然に防ぐための機能です。）
5	（1回短い点滅・2回長い点滅・1回短い点滅を2セット繰り返す）	**エンジンがかからない場合** ●セルスタート（クランキング）時間が短いです。 車載機のモードスイッチNo.2をONにしてください。 **エンジン始動後すぐにエンジンが止まってしまう場合** ●エンジンの始動判断が出来ません。 リレーボックスのDIPスイッチNo.3をONにしてください。 ※それでも駄目な場合には、発電機（オルタネーター）のL端子へ専用ハーネスのL端子コード（茶）を接続してください。（下記参照）
6	（ずっと点灯を続ける）	●誤って始動判断を行っています。 車載機のモードスイッチNO.2をONにしてください。 まだ駄目な場合は、リレーボックスのDIPスイッチNO.3をOFFにしてください。 ※それでも駄目な場合には、発電器（オルタネーター）のL端子へ専用ハーネスのL端子コード（茶）を接続してください。（下記参照）
7	（1回短い点滅・1回長い点滅・2回短い点滅を2セット繰り返す）	●L端子コードの接続が間違っています。 取付・配線をやり直してください。（下記参照）

★上記の対処を行っても解決しない場合は、
当社サービスセンターにご連絡ください。

L端子の探し方

エンジンルーム内の発電機（オルタネーター）から出ているコード（バッテリーへ行く太いコードではありません。）のうちイグニッションONで1～2V、エンジン始動後12Vのでるコードを検電テスターで探します。

仕様

	項目	仕様
	技術基準	RCR基準規格 テレコントロール用無線設備適合
	使用周波数	429MHz帯
	通信方式	双方向通信方式
	送信出力	10mW
	送信時間	3秒以内
	送信休止時間	2秒以上
リレーボックス	定格電圧	DC12V
	パワー制御電流	突入電流80A　最大電流30A
	サイズ	高さ80×幅72×厚み38（mm） ［突起部除く］
	重量	180g
携帯機	アンテナ	内蔵ロッドアンテナ
	作動温度範囲	－10℃ ～ ＋60℃
	使用電池	CR2025×2個
	電池寿命	約半年 （1日4回送信したとして算出）
	サイズ	高さ69×幅35×厚み15（mm）
	重量	36g
車載機	アンテナ	可倒式フレキシブルアンテナ
	作動温度範囲	－20℃ ～ ＋70℃
	待ち受け電流	15mA（スリープモード付）
	サイズ	高さ82×幅50×厚み20（mm） ［突起部除く］
	重量	140g

保証書

保証規定

1. 保証期間内（お買い上げ日より3年間）に、正常な使用状態において、万一故障した場合には無料で修理いたします。
2. つぎの[illegible]な場合に[illegible]証期間内でも有料修理となります。
   - ([illegible]) 本保証書の[illegible]示がない場合
   - ([illegible]) [illegible]誤[illegible]不当な修理や改造による故障および損傷
   - ([illegible]) お買上げ後[illegible]送、移動、落下などによ[illegible]
   - ([illegible]) 火災、地震、[illegible]、異常電圧、公害、指定以外[illegible]周波数）
   - [illegible]その[illegible]災、地変などによる故障および損傷
   - ([illegible]) 本保証書の[illegible]事項の未記入あるいは字句を書[illegible]た場[illegible]
     [illegible]日、販売店名はレシートで可。
   - ([illegible]) 外観部分の損傷
   - (ト) [illegible]の摩耗
   - (チ) [illegible]池切[illegible]
3. 修理[illegible]お買い[illegible]げの販売店に[illegible]らず本保証書をご提示の上、[illegible]依頼ください。
4. [illegible]証書は、再発[illegible]で、大切に保管してください。
5. 本保証書は日本国内においてのみ有効です。
   This warranty is valid only for servise in Japan.

CARMATE 株式会社カーメイト
本社／〒162-8630　東京都新宿区榎町72番地牛込榎町ビル　03（3268）1421